令和6年度 北海道上磯高等学校 学校関係者評価結果

令和7年(2025年)3月11日(火)

有効回答数 9 (一部無回答あり)

●委員 (PTA役員・学校評議員) による学校の評価 (表面)・・・上磯高校は教育計画に対し学校としての(表面: 取組や運営) (裏面: 改善方策) が適正かどうか

<A:+分である、B:おおむね+分である、C: π +分である、D:改善を要する>で評価し該当のものにOをつけてください。

★学校職員による<u>上磯高校としての自己評価の適正さ(表面)</u>

<A:適正な評価である、B:ほぼ適正な評価である、C:やや不適正な評価である、D:不適正な評価である>で評価しOをつけて<ださい。

◆学校職員による改善方策の適正さ(裏面)

<A:適正な評価である、B:ほぼ適正な評価である、C:やや不適正な評価である、D:不適正な評価である>で評価し〇をつけてください。

1	教育活動について)	員	اتا	よる学校の	の評価	★「学校職員による自己評価」の適正さ							
領域 为			目標達成のための評価の観点	数値目標等	委	員評 (人		布	評価	昨年度	学校職員	委員評価分布 (人数)				布	評価	
	対象	今年度の目標			Α	В	С	D	数値		による自己 評価	Α	. 1	В	С	D	数值	昨年度
教育活動	学習	1 学習意欲の 向上	・観点別評価、新カリキュラムを検証する とともに、校外へ向けた学習成果発表の 場を設定し、学習意欲を向上させる取組 を実施できたか。	〇校外へ向けた学習成果発表会の場を教科、探究の時間を含めて各学年で1回以上設定。	5 56%	4	0%	0%	4.4	4.4	3.8	7	, · 3% 1:	+	0%	0 %	4.8	4.2
		2 ICT活用の 促進	・全教員が1人1台端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることができたか。	OICTに関する研修会を年間 6回以上実施。	7	2 22%	0%	0%	4.7	4.4	4.2	7	, ·	_	0%	0 %	4.8	4.2
	生	1 生徒会活動 の充実	・生徒が主体的に生徒会活動に取り組む ための組織・体制作りに努め、生徒が自 ら考えた生徒会行事を実践・持続する指 導を行えたか。	〇年2回のリーダー研修会を 実施し、月1回生徒会だより を発行し、情報発信に努め る。	4 44%	5	0%	0 %	4.3	4.1	3.3	50	ļ 4	_	0%	0%	4.4	3.9
	徒指導	2 生徒・保護 者との生徒指 導の在り方共 有	導体制を築くための情報発信を十分に行 えたか。また、意向把握の仕組み作りが	〇生徒指導部だよりの隔月 発行と生徒・保護者の意向 調査のためのアンケートを実 施する。	3	5	0	1 11%	3.9	4.1	3.4	4	1 3	-	0%	1 13%	4.1	4.1
	進路指導	1 進路実現に 向けた意欲の 喚起	十分に行うことができたか。 ・「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、生徒に夢を持たせ、その実現に持続的に取り組ませることができたか。	〇全校生徒との進路面談を 前期1回、後期1回、計2回 最低実施。	5		0	0 %	4.4	4.2	3.9	6	+	2	O 0%	0	4.7	4.2
		2 学年、保護 者への情報発 信	・生徒の進路希望をよく理解し、実現に向けた支援を学年、保護者が行えるよう適切な情報発信及び助言を行うことができたか。	〇職業体験、グループワークがイダンス、就職がイダンス等の説明会を各学年で1回以上実施。 〇3年就職希望者には、管内企業説明会(ハローワーク主催)に1回は参加させる。	4 44%	5		0%	4.3	4.2	4.1	75	3 2 5 % 2 5 %	2 5%	0	0 %	4.7	4.1
	開かれた	1 北斗高等支援学校との連携強化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性の共有、早期での課題把握など、「協和」 実現に向けた計画、具体的な取組をさら に実施することができたか。	〇本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初及び途中からでも提案・実施し、策定・実施する。	2 22%	7	0%	0%	4.0	4.1	3.7	50	ļ 4	4 0%	O 0%	0 %	4.4	4.4
学校運営	学校づくり	2 市内小中学 校、地域への情 報発信及び 交 流活動の実施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	〇市内小中学校児童生徒と の交流事業5以上。	1 11%	7	1 11%	0%	3.8	3.8	3.5	50	1 3	3	13%	0 %	4.2	4.4
	組織	1 担当校務の 平準化	・今年度教育計画の実施事項、分担者等 を前期に見直し、後期に平準化に向け取 り組むなど、実効性ある働き方改革を実 行できたか。	〇人事評価定期面談等で実 効感を確認し、50%以上の実 行感覚を得る。	1 11%	7	0%	1 11%	3.6	4.1	3.3	4	1 3	+	0 0%	1 13%	4.1	4.4
	運営		・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	○協働体制の有機的連携により45h/月の超過勤務者数の前年度比50%減。	1 11%	89%	0%	0%	3.9	4.1	3.6	4	l 4	+	0%	0%	4.4	4.4
	教員の資	1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修還元報告等を組み合わせ、職員の意識を高めることができたか。	〇各種研究協議会における 研究発表者を年間のベ2名 以上。	3	5 56%	0%	1 11%	3.9	4.2	3.9	75			O 0%	1 13%	4.4	4.4
	一質	2 社会性の修 得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることができたか。	〇各テーマごとのミニ発表会 実施を3回以上。	4 44%	5 56%	0%	0%	4.3	4.1	4.1		5 3	+	O 0%	0 %	4.5	4.4
	学校	1 危機管理体 制の確立	・生徒及び教職員の安全を確保するため、組織的な危機管理体制を確立し、保護者や地域と連携しながら迅速な対応を行うことができたか。	〇月に1回以上、教職員の 研修や啓発を実施し、生徒 の安全確保や学校の防犯・ 防災体制の確立に努める。		7		0%	4.0		3.8	_	5 2 5% 2!	+	O	0 %	4.7	
	安全	2 生徒の安 心·安全への 支援	・生徒が安心・安全な生活を送れるよう、心身の健康への配慮、いじめ防止対策、日常の困り感への対応など、保護者や関係機関と連携し、きめ細かな支援を行うことができたか。	〇心の健康や教育相談アンケート、ハイパーQU、いじめ早期発見のためのアンケート等を年間10回以上実施。	5	4	0%		4.4		4.2		5 3	_	O 0%		4.5	

2 上記1のほか、ご意見があれば書いてください。

・日頃からの連携・協働に向けた取組み、ありがとうございます。次年度も更に上磯・北斗の共同学習がすすむことを期待しています。

						◆改善方策の適正さ						
		今年度の目標	! 目標達成のための評価の観点			委員評価分布 (人数)				評価		
領域 対象	対象			数値目標等	改善方策	А	вС	D	数値	昨年度		
	学	1 学習意欲の 向上	・観点別評価、新カリキュラムを検証する とともに、校外へ向けた学習成果発表の 場を設定し、学習意欲を向上させる取組 を実施できたか。	表会の場を教科、探究の時	う、計画的に学習成果発表の取組みを実践して いく。		25%			4.7	4.2	
	習指	2 ICT活用の 促進	・全教員が1人1台端末を有効に活用する授業実践を行うとともに、教科ごとの効果的な活用について研究を進めることが		○研修会等を通じて最新のトピックや互いの実 践例を共有することで、校務におけるICTの効果 的な活用を促進する。							
			できたか。		的な活用を促進する。	63%	25%	13%	0%	4.4	4.2	
		1 生徒会活動 の充実	ための組織・体制作りに努め、生徒が自 ら考えた生徒会行事を実践・持続する指	実施し、月1回生徒会だより を発行し、情報発信に努め	〇生徒会執行部の活動自体は活性化してきているため、行事を通した学びを推進するとともに、リーダー研修会の実施、生徒会便りの発行な複数の実施、生徒会便りの発行	6	2	0	0	4.7	4.2	
育	生徒指		導を行えたか。 ・本校の生徒指導に関する方針・在り方	る。 〇生徒指導部だよりの隔月	を複数回実施する。 〇生徒指導部便りの発行回数確保のため、分	75%	25%	0%	0%			
動		る 全版・保護 者との生徒指 導の在り方共 有	本代の主張行為に関するカリーでクリー を、生徒、保護者と共有しよりよい生徒指 導体制を築くための情報発信を十分に行 えたか。また、意向把握の仕組み作りが 十分に行うことができたか。	発行と生徒・保護者の意向 調査のためのアンケートを実	掌内での役割分担を行い、アンケートを含めた	5	38%			4.5	4.1	
F		1 進路実現に 向けた意欲の	・「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、生徒に夢を持たせ、その実	〇全校生徒との進路面談を 前期1回 後期1回 計2回	〇個々の進路面談の内容の充実を図るとともに「総合的な探究の時間」の内容や時期を学年と連携し、進路指導との連動を図りたい。	5						
	進	喚起	別に右角と、主張に多を特だせ、その失 現に持続的に取り組ませることができた か。				38%			4.5	4.2	
		2 学年、保護・ 者への情報発		ンス、就職ガイダンス等の説明	う働きかける。 〇保護者説明会の内容の充実に努め、出席数	3	4	1	0	4.4	4.0	
			たか。	〇3年就職希望者には、管 内企業説明会(ハローワーク主催) に1回は参加させる。		38%	50%	13%	0%	4.1	4.2	
	かれた	1 北斗高等支援学校との連携強化	・連絡会議を機能的なものとし、方向性 の共有、早期での課題把握など、「協和」 実現に向けた計画、具体的な取組をさら に実施することができたか。	〇本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初及び途中からでも提案・実施し、策定・実施する。	〇北斗高等支援学校との連携は、今年度より新たに合同学校説明会の開催、両校PTA等による清渓屋出店、進路指導の協力などを実施し、スピード感のある連携を構築できた。次年度も両校の良さを生かした取り組みを継続していく。 〇市内小中学校との交流はできなかったが、北		3	1	0		4.0	
	学校づくり	2 市内小中学 校、地域への 情報発信及び 交流活動の実 施	・本校からの情報発信のみならず、小中学校との共同の活動や地域行事への積極的な参加により、児童生徒との直接的な交流が図られたか。	〇市内小中学校児童生徒と の交流事業5以上。	斗市子ども会連絡協議会への協力、夏祭りや防災行事への生徒参画を通じ、地域への発信は 実現できた。次年度も機会を捉え充実させてい く。		6 389	4 .	4.2	4.2		
	組	1 担当校務の 平準化		効感を確認し、50%以上の実	業務の属人化を避け。効率化を推進するた		2	0	0			
学		員集団の構築	・校務運営上の調整や課題解決に向け、個々の職員が主体的に取り組むとともに、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができたか。	より45h/月の超過勤務者数	め、業務の進捗状況の可視化や組織で取り組む体制づくりをより推進する。 〇超過勤務の解消は変形労働時間制の積極的な活用や各種休暇の取得促進により改善に向かっている。次年度も継続していく。	75%	6 25%	6 0%	0%	4.7	4.1	
交軍営	教員の資	1 研修の充実	・学習評価や新カリ、BYOD端末活用での全体的、計画的な研修と個々の研修 還元報告等を組み合わせ、職員の意識 を高めることができたか。	○各種研究協議会における 研究発表者を年間のベ2名 以上。	筆を行った。次年度もそれぞれの専門性を高め、校内外に還元できるよう機会を設定する。 〇各種研修の受講奨励や教育動向に対する迅	5	3	0	0			
	啠	2 社会性の修 得	・教育に関する情報のみならず、社会の動きや課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたることができたか。	○各テーマごとのミニ発表会 実施を3回以上。	速な情報提供を通じ、教員の資質能力向上に向け継続発展させていく。	63%	38%	0%	0%	4.5	4.5	
	学	1 危機管理体 制の確立	・生徒及び教職員の安全を確保するため、組織的な危機管理体制を確立し、保護者や地域と連携しながら迅速な対応を行うことができたか。		○危機管理については、注意喚起や情報提供 だけでなく、自分事として捉える研修の充実を図 る。 ○生徒の安心・安全への支援については、日常	5	3	0	0			
	校 安	2 生徒の安 心・安全への 支援	・生徒が安心・安全な生活を送れるよう、 ・身の健康への配慮、いじめ防止対策、 日常の困り感への対応など、保護者や関係機関と連携し、きめ細かな支援を行う ことができたか。	早期発見のためのアンケート	の観察や声かけを丁寧に行い、生徒の困り感 の発見や対応に即時性をもって応えられる校内 体制を構築する。		6 38%	0%	0%	4.5	$ \ $	